

就職問題から示される 新たな自己モデルへの期待

下村英雄
(労働政策研究・研修機構)

自己分析とは

- 就職活動を目前とした段階で「自己分析」が推奨される。
 - 「就職活動 自己分析」で検索すると38万件Hit
- この段階で自己の捉え直しの作業を行い、一度、自己の内面に深く潜り込むような作業を行うことが、一般に推奨される。

自己分析とは

- エントリーシート・面接試験などで、志望動機や自己PRが求められる。
 - 就職を目前にして自己の能力等を正確に把握したいという自己認識欲求(上瀬,1992)が高まる。
 - 就職活動では、様々なことを考慮しなければならぬため、確固たる選択基準が定まっていないと、首尾一貫した効果的な情報探索が行えない(下村,1996;下村・堀,2004)。

自己分析課題

私が現在力を注いでいることは、
()であり、
その理由は()であり、
学んだ事は()です。

私が最も楽しかったことは・・・
私が最も悔しかったことは・・・
私が人生で大切だと思っていることは・・・
私が将来やってみたいことは・・・

下村(2000)「自己分析課題がコンピュータによる情報探索および進路選択に対する自己効力に与える影響」

自己分析課題

「私は、・・・な人間である」という8つの短文に、思いつく語句を入れて完成させてください。

- 私は()な人間である。
- 私は()な人間である。
- 私は()な人間である。
- 私は()な人間である。
- 私は()な人間である。
- 私は()な人間である。

⋮

自己分析課題

地位・名誉・愛情・才能・富・安らぎ・趣味・プライド・賞賛・友情・家族・厳しさ の12語句から以下の文章に当てはまるものを2つ選択する

「自分にとって必要なもの」

「今の自分に欠けているもの」

「これからの人生で獲得したいもの」

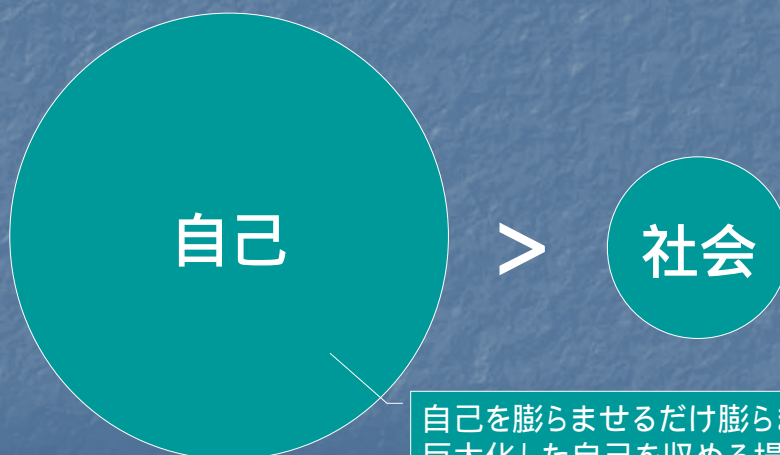
就職活動と自己分析

- しかし、就職活動前段階における「自己の捉え直し」のプロセスで、大きな問題が生じる場合があることを指摘した論考は多い。



- 本発表では、この問題を、比喩的な意味で「自己」と「社会」のサイズの問題として考えたい。

「自己分析」の迷宮



自己を膨らませるだけ膨らませて、巨大化した自己を収める場所を社会の中に見つけれなくなる。

「自己分析」の迷宮



自己の存在を社会全体に対して小さく見積もりすぎるあまりに、自分の居場所を社会に見つけられなくなる。

「フリーター」と「ニート」

- いわゆる「フリーター」と「ニート」の職業意識には、若者における「自己と社会」の関連を考える際の手がかりが伏在している。
 - 自己 > 社会
フリーターの「やりたいこと志向」の職業意識
 - 自己 < 社会
ニートの「就職忌避」の職業意識
- 以下に「フリーター」と「ニート」の職業意識を見てみることにする。

フリーターの「やりたいこと志向」

	非		(差)
	フリーター	フリーター	
やりたい仕事なら正社員でもフリーターでもこだわらない	77.4%	54.8%	22.6%
いろいろな職業を経験したい	70.0%	57.6%	12.4%
今の世の中、定職に就かなくても暮らしていける	57.5%	46.5%	11.0%
若いうちは仕事よりも自分のやりたいことを優先させたい	79.5%	69.7%	9.8%
有名になりたい	41.7%	34.2%	7.5%
将来のことを考えるよりも今を楽しく生きたい	48.3%	41.8%	6.5%
将来は独立して自分の店や会社を持ちたい	47.2%	44.1%	3.1%
自分に向いている仕事が見つからない	46.3%	47.2%	-0.9%
できれば仕事はしたくない	29.9%	32.0%	-2.1%
専門的な知識や技術を磨きたい	90.4%	92.9%	-2.5%
ひとよりも高い収入を得たい	76.4%	79.2%	-2.8%
職業生活に役立つ資格を取りたい	86.6%	91.0%	-4.4%
ひとの役に立つ仕事をしたい	75.0%	80.9%	-5.9%
一つの企業に長く勤める方がよい	52.4%	58.6%	-6.2%
フリーターより正社員で働いた方がトクだ	68.7%	82.6%	-13.9%

小杉編(2002)「自由の代償/フリーター」より

フリーターの「やりたいこと志向」

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	備考
自分に合わない仕事ならしたくない	フリーター 3.46	大学決定 3.35	専門決定 3.34	就職未定 3.26	就職内定 3.19	123> 234>45
一つの仕事にとどまらずいろいろな経験をしたい	フリーター 3.22	専門決定 2.86	大学決定 2.85	就職内定 2.83	就職未定 2.82	1>2345
専門的な知識や技術を磨きたい	専門決定 3.80	大学決定 3.54	就職内定 3.34	フリーター 3.21	就職未定 3.16	1>2>3>4 5
ひとよりも高い収入を得たい	就職内定 3.21	大学決定 3.19	専門決定 3.15	フリーター 3.07	就職未定 3.06	123> 345
人の役に立つ仕事をしたい	専門決定 3.27	大学決定 3.25	就職内定 3.18	就職未定 3.08	フリーター 2.93	123> 34>5
安定した職業生活を送りたい	大学決定 3.62	就職内定 3.62	専門決定 3.52	就職未定 3.52	フリーター 3.28	123> 34>5

各質問項目を「とてもそう思う」4点～「全然そう思わない」1点の4件法でたずねた平均備考は、scheffe法による多重比較結果(5%水準)。

関東地方高校52校の3年生6,855名に卒業直前の1月時点で実施した調査
日本労働研究機構(2000)「進路決定をめぐる高校生の意識と行動」より

フリーターの「やりたいこと志向」

- フリーターだとやりたい仕事が見つかるので、お金の面には少ないですけど、でも、フリーターの方がいい気がしますね(21歳・女性・高卒)。
- 好きな仕事ができれば、別にフリーターでも正社員でもどっちでもいいと思うんですけども、要は本人がそれをよしとしているかどうか(27歳・男性・大卒)。
- やりたいことをやっていればそれでいいと思うんですよ(21歳・女性・大学中退)。

下村(2002)「フリーターの職業意識とその形成過程 - やりたいこと志向の虚実」
in 小杉編「自由の代償 / フリーター」より

フリーターの「やりたいこと志向」

- 悪いフリーターっていうのは、いい意味で、いや、悪い意味で、今のことしか考えてないっていう。(中略) 良いフリーターは何て言うんだろう、現実的に自分のやりたいことを計画している人(20歳・女性・大学中退)。
- 二通りあると思うんですよ、フリーターでも、やることなくしてやってる子と、やりたいことがあってバイトしている、何かのためにバイト、フリーターじゃなきゃいけない人と、やることが何も見つからなくてフリーターでしょうがなくやっっている人と(19歳・男性・高卒)。
- やりたいことがあるんだったら(いい)。(でも、何も目標がないんだったらやめたほうがいいと思うのは)それは普通に働いてたほうが、無難かなと(27歳・男性・高卒)。

フリーターの「やりたいこと志向」

■ フリーターの「やりたいこと」の具体的内容

■ 男子

■ 音楽・ダンス	31.8%
■ 無回答	30.6%
■ 芸能・プロスポーツ関係	10.6%

■ 女子

■ 無回答	24.7%
■ 勉強・習い事	14.8%
■ 音楽・ダンス	12.3%
■ 特定職業（の修行）	12.3%

日本労働研究機構(2000)より

フリーターの「やりたいこと志向」

- 下村(2002a) フリーターの「やりたいこと」志向とは、ポジティブに評価できる面を多分に含んでいるがために、本人が自覚しているか否かにかかわらず、現実の職業生活と自分との接点を見出せない場合の隠れ蓑として機能してしまうことがあると言える。
 - フリーターの職業意識とその形成過程 - 「やりたいこと志向」の虚実 小杉礼子編 「自由の代償 / フリーター」 日本労働研究機構
- 下村(2002b) フリーターは膨れ上がった「やりたいこと」を現実の職業生活と結びつける方法に手間取っていると言えるだろう。(中略)現在、若年者に対する進路指導の実践で強く意識されているのは、すっかり私事化してしまった職業選択に、どうすれば社会性・公共性を取り戻せるのかということである。
 - フリーターの「やりたいこと志向」と「生きる力」 目白大学短期大学部女子教育研究所 所報「女子教育」25

- 下村(2002c) フリーターの職業意識の特徴は「やりたいことをやる」という価値観であり、そうした価値観のある部分は、自分にとって可能な進路選択肢を弁別できなくなってしまったために内的な志望や希望を過度に強調せざるを得ないことに起因している、といったことが考えられるのである。
 - 進路を決める 松井豊編「対人心理学の視点」ブレーン出版
- 下村(2003) 現代社会では、自分のやりたいことをやるということがとても価値のあることだと考えられている。(中略)しかし、筆者の個人的な見解では、フリーターが「やりたいこと」志向をフリーター生活を支える中心的な価値観とし、それ以外の考え方をなかなか重く感じ取れないのは、やはり問題だと思う。
 - 調査研究からみたフリーター - フリーターの働き方と職業意識 後藤宗理・大野木裕明 編著 現代のエスプリNo.427「フリーター - その心理社会的意味」至文堂
- 下村(2004) 多くの大学生は就職を自己実現的な考え方でしか考えることができない。誰しも大学生くらいの頃は、自分の生きがいか、自分のやりたいこととか、自分の将来や可能性とか、そんなことばかりを考えていたはずである。
 - 大学生の就職意識 - 大学生という「子ども」の意識 IDE - 現代の高等教育(2005年2月号)

「やりたいこと志向」をめぐる 様々な言説

- 「やりたいことがある」から頑張るのではなく、「やりたいことを見つける」ために頑張る以上、本当のところ、それが「本当に」やりたいことなのかどうかは、本人にさせ決められないのだ。結果的に彼らは、いつも「暫定的にやりたいこと」へ向けて「やりたいこと探し」を続けていくことになる(鈴木,2005「カーニヴァル化する社会」)。
- フリーターは、自分の好きな仕事を見つけるまでは、フリーターをやめるわけにはいかないと思いがちである(久木元,2003)。なぜなら、妥協して自分の現在の能力にあった仕事に就くことは、「夢を捨てる」ことになり、フリーターであった時間が無駄になってしまうからである(山田,2004「希望格差社会」)。

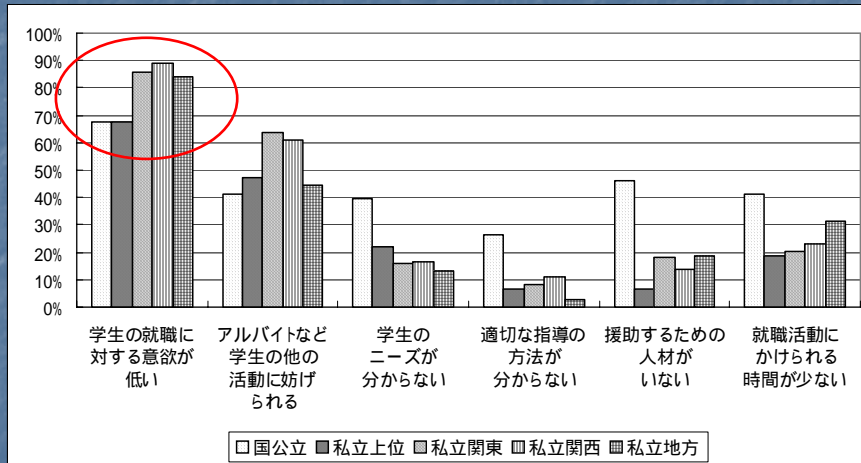
「やりたいこと志向」まとめ



ニートと「就職忌避」

- 大学就職部の悩み 学生の就職に対する意欲が低い。
- ニートは、学校のキャリアガイダンスを利用した割合が少ない。
- 就職活動経験あり フリーター(30.8%)、ニート(8.7%)
- ニートは、
 - 経済的に自立できた、
 - 新しいスキルを身につけた、
 - 職業生活をうまくやっていく自信がついた、と思っていない。
 - 学校時代、友人も少なく、好きな先生もいなかった。
 - 学校生活は楽しくなかった。
 - 現在は「何をしたところで、空しい」と思っている。

ニートと「就職忌避」



下村(2004)「企業が参画する若年者のキャリア形成支援 - 学校・NPO・行政の連携のあり方」労働政策研究・研修機構 より

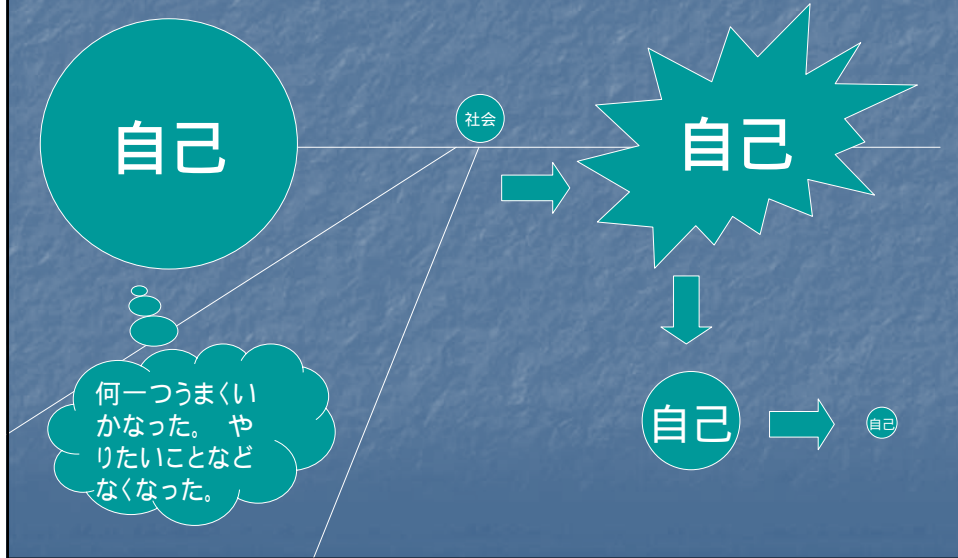
ニートの5類型

■ ニート（小杉,2005）「フリーターとニート」

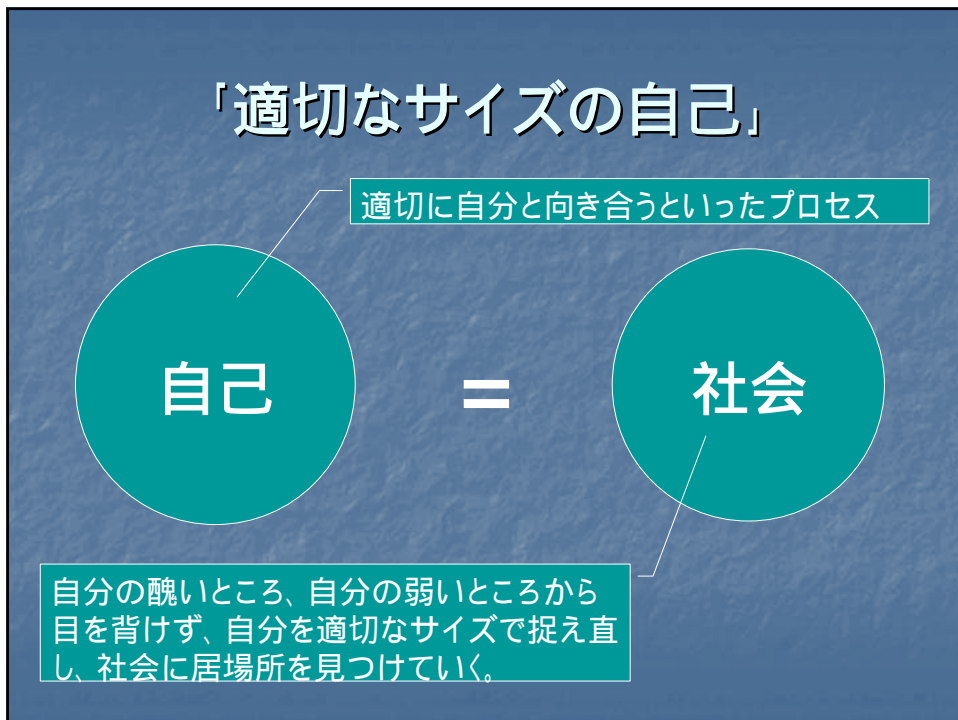
- 「刹那を生きる」 「やりたいこと」のないフリーター
- 「つながりを失う」 対人関係不全
- 「立ちすくむ」 「就職活動」忌避
- 「自信を失う」 離職ニート
- 「機会を待つ」 就業機会ないし

挫折経験を伴う

ニートの「就職忌避」まとめ



「適切なサイズの自己」



「適切なサイズの自己」に向けて

	5月いっぱいまで就職活動を				
	終了(n=22)		未終了(n=23)		sig.
就職サイト利用頻度	29.27 (7.88)		34.96 (7.71) *		
友人を情報源とした					
3月	22名	100.0%	22名	95.7%	
4月	17名	77.3%	16名	69.6%	
5月	8名	36.4%	10名	43.5%	
OB・OGを情報源とした					
3月	15名	68.2%	9名	39.1% +	
4月	17名	77.3%	7名	30.4% **	
5月	11名	50.0%	5名	21.7% *	
面接企業数					
3月	3.9社	(2.53)	2.5社	(3.22)	
4月	10.5社	(4.27)	5.0社	(5.38) **	
5月	2.4社	(2.57)	4.2社	(5.04)	

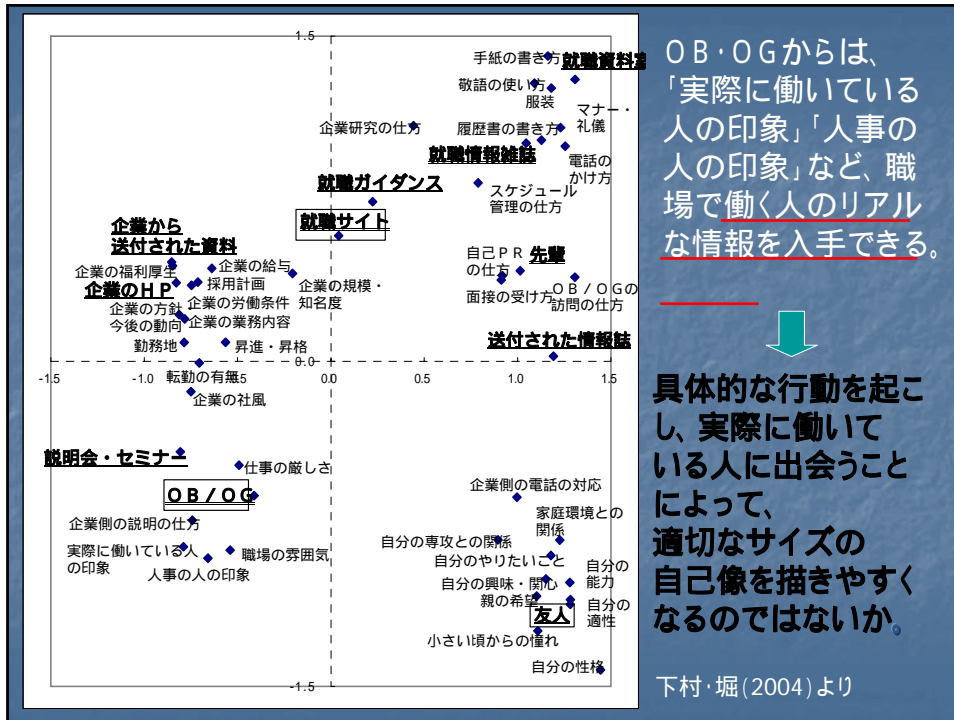
カッコ内はSD

就職活動がうまくいった者は、就職サイトの利用頻度が少なく、OB・OGを情報源として、企業に面接を多く受けに行っている。

「適切なサイズの自己」に向けて

	面接企業数		
	3月	4月	5月
就職サイト利用頻度	-.10	-.12	-.03
エントリーシートの記入			
3月	.33	.40	-.23
4月	-.15	.13	.39
5月	-.36	-.43	.24
友人を情報源とした			
3月	.02	.01	-.02
4月	.15	.02	-.32
5月	-.11	-.17	.14
OB・OGを情報源とした			
3月	.31	.50	.14
4月	.49	.57	-.11
5月	.37	.33	.15

エントリーシートの記入が多かった者ほど、また、OB・OGを情報源とした者ほど、面接企業数が多い。



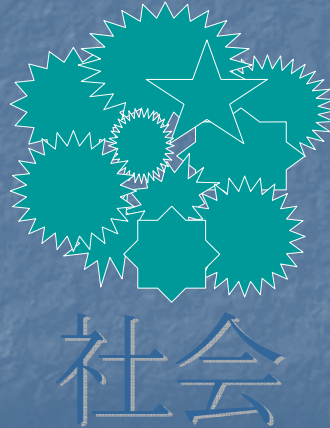
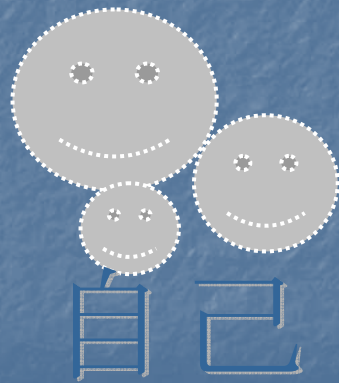
企業が採用時に重視する能力

- 無作為抽出による企業調査1,472社 (有効回答率13.1%)

- 1位 コミュニケーション能力(85.5%)
- 2位 基礎学力(66.9%)
- 3位 責任感(62.0%)
- 4位 積極性・外向性(61.3%)
- 5位 資格取得(60.3%)

厚生労働省(2003)より

現代社会における 「適切なサイズの自己」とは？



新たな自己モデルへの期待

- 価値観の多様化
- 細分化された断片的な社会
- 価値観を共有しない異質な他者と必要に応じてコミュニケーションをとらなければならない。
- 社会全体が相互に異質なものを含んでいるような状況下で、社会に適合する「適切なサイズの自己」とは、どのような自己なのか。
- 若者の就職を考える上で、新たな自己モデルが求められている。